

説教 「小さき者の神」

(ミカ書 2 章 12-13 節 マタイによる福音書 25 章 31-40 節)

2020 年 11 月 22 日 主日礼拝

日本基督教団仙川教会 大串肇牧師

今日は教会の暦では最後の日曜日です。来週からは待降節に入り、クリスマスアドヴェントが始まり、教会の暦の上では新しい年を迎えます。そういう意味で今日は、今年最後の日曜日なので、世界の救いの完成である終末を覚え祈る日なのです。わたしたちキリスト者は終わりの時、再び主イエス・キリストがやってくると信じています。栄光に輝く神の国に入ることが出来る日であり、わたしたちはその日を待ち望むのです

他方、32 節には集められるのは「すべての国の民」とあります。キリスト教徒もそうでない人も誰にでも死があるように、清算する日がやってくるのです。そのとき、だれが天国に行けるのか。マタイ福音書によれば、わたしたちがそれは飢えている人、喉が渴いている人、病気の人、貧しい人たちを助けたか、どうかで決まるというのです。一言で言えば、隣人を愛するということです。イエスはこう語りました。

はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。

神を信じたり、神に仕えたりすることは言われていません。むしろ前提にされているのでしょう。信仰と言っても心の中で信じているだけではなく、わたしたちの生き方、生き様と深く関係します。どんなに小さな存在でも隣人を助けたり、祈ったりすることを通して神にわたしたちは仕えることが出来るのです。年齢や男女の区別、社会的立場もまったく関係ありません。

あるところに 1 人の男がいました。彼はたった一人の女の子の死を悲しんでいました。そのとき、彼はキリストの声を聞いたのです。キリストは明日彼の下に来ると約束しました。その翌日、彼は窓際に座って待っていたのです。すると様々な人たちが通り過ぎました。最初にシャベルで雪かきをしてへとへとになっている老人が来ました。その次に 1 人の女の子を連れた兵隊の妻がやってきました。二人とも寒くて死にそうでした。3 番目は老婦人で盗まれたリングのことで争っていました。彼はこの人たちに飲み物や食べ物を与えました。実は、この 3 人はキリストだったのです。しかし彼はそのことを知りませんでした

た。ところが夕べの読書で今朝の聖書箇所であるマタイによる福音書 25 章 31-40 節を読んだのです。そのときはじめて彼はそのことを教えられたのです。彼こそ靴職人のマルティン・アウデイッチであり、これはトルストイの有名な物語「靴屋のマルティン」です。この物語の正式な名称は「**愛があるところ、そこに神がいる**」というのです。トルストイにとって、神はどんな人間の内に生きており、仲違いした人たちを結びつける愛そのものです。ヨハネの手紙(一)4 章 7-8 節をお読みいたしましょう。

4:7 愛する者たち、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです。 4:8 愛することのない者は神を知りません。神は愛だからです。

今年、大勢の人々が新型コロナウイルス感染症のために命を奪われ、経済的困窮や失業などで苦しい思いをし、今も大きな拡大の脅威に晒されています。そのような世界の中で「**はっきり言っておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである**」というキリストの言葉は決して昔話ではありません。わたしたちが今何をすべきかを教えてくれていると思います。「**愛があるところ、そこに神がいる**」のです。

神はわたしたちを見捨てたわけではありません。そうではなく、神ご自身がまさにわたしたちのために苦しんでいるのです。イエス・キリストのあの痛ましい、十字架の御姿にその愛は刻まれています。神の子でありながらイエスはその自分を捨て、低きに下り、わたしたちの苦しみを負いながら十字架に御付になられた方なのです。最も小さき者のために、罪深いわたしたちのために。

わたしたちが出来ることなどほんのわずかかもしれません。いや、ほんのわずかにすぎないのです。しかしどんなに小さなことであっても、1 杯の水に過ぎないことでも、わたしたちが隣人に愛の心を差し出すとき神は喜んで受け取ってくださるのです。なぜならば、彼らもまたキリストに愛された人々だからです。「**最も小さい者**」をイエスは「**わたしの兄弟**」と呼んで下さいました(40 節)。それはイエスご自身が最も小さな者になってくださったからです。わたしたちは今朝このイエスに出会うことができます。そしてを祈り求めたいのです。そしてどうか、わたしたちにもキリストの愛が生きて働き、隣人を助けるために 1 杯の水を差し出す勇気を与えてくださることを。ご一緒にお祈りいたしましょう。